

受 検 番 号	氏 名

令和 8 年度

1 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題（午前の部）

令和 8 年 7 月 19 日(日)

[注 意 事 項]

- ページ数は、表紙を入れて 21 ページです。
- 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - [No. 1]から[No. 6]までの 6 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 7]から[No. 15]までの 9 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 16]から[No. 20]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 21]から[No. 30]までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 31]から[No. 40]までの 10 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 41]から[No. 44]までの 4 問題は、全問題を解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となります。
- 問題は、四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
- 解答用紙への記入に当たっては、次によってください。
 - 解答は、選んだ番号を解答用紙のマーク例の良い例に従って、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。ボールペン、サインペン、色鉛筆等では採点されません。
 - マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、午前の部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。途中退席する場合は、持ち帰りできません。

※ 問題番号 [No. 1] から [No. 6] までの 6 問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 1] 伝熱に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 熱貫流率は、壁体の熱伝達率と熱伝導率を合計したものをいう。
2. 総合熱伝達率は、対流熱伝達率と放射熱伝達率を合計したものをいう。
3. 壁体内の中空層の片面にアルミ箔を貼り付けると、壁体全体の熱抵抗が増す。
4. 熱放射は、電磁波による熱の移動現象であり、真空でも生じる。

[No. 2] 大学生 30 名が在室している教室の必要換気量 (m^3/h) の値として、正しいものはどれか。

ただし、大学生 1 人当たりの二酸化炭素 (CO_2) 発生量は $0.02 \text{ m}^3/\text{h}$ 、外気の CO_2 濃度は 400 ppm 、教室内の CO_2 濃度の許容値は $1,000 \text{ ppm}$ とし、大学生の呼気以外に CO_2 を発生するものはないものとする。

1. 33.3
2. 600
3. 1,000
4. 1,500

[No. 3] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

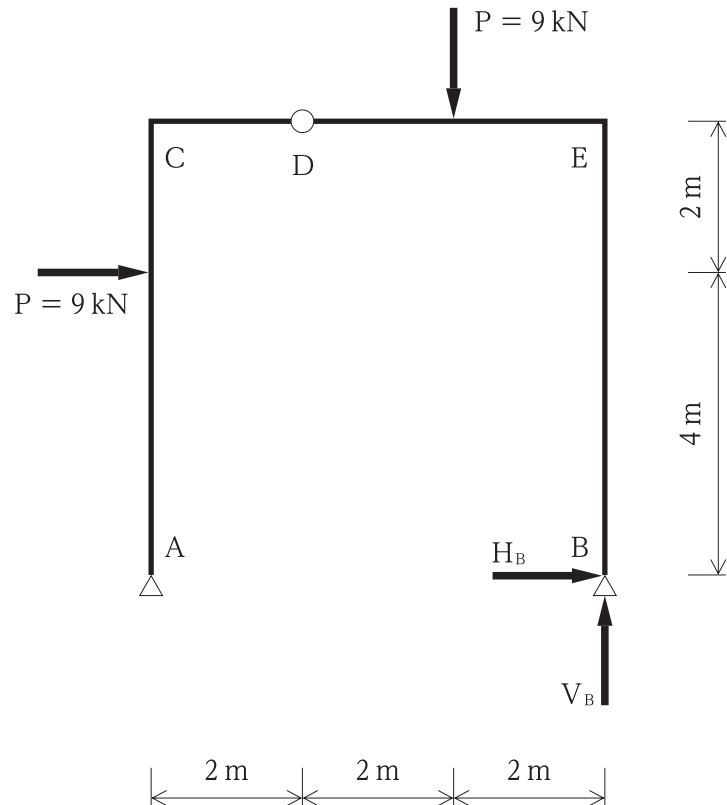
1. 柱脚に高い回転拘束力をもたせるためには、露出柱脚ではなく根巻き柱脚とする。
2. 梁のたわみは、部材断面と荷重条件が同一の場合、材質が SN 400 A より SN 490 B のほうが小さい。
3. 埋込み柱脚では、埋込み深さを柱の断面せいの 2 倍以上確保する。
4. 構造耐力上主要な部分である鋼材の圧縮材の有効細長比は、柱にあっては 200 以下とする。

[No. 4] 地盤及び基礎構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 粘性土地盤の圧密沈下は、長時間かけて地中に応力が作用することにより、土中の水が徐々に絞り出されて間隙が減少するために生じる。
2. 地盤の液状化は、地下水面下の砂質土が地震動を受けて変形すると、砂質土中の間隙水の水圧が急激に高まり、水と砂が混じって泥水のような状態となる現象である。
3. 圧密沈下における沈下量の限界値は、独立基礎のほうがべた基礎に比べて大きい。
4. 基礎梁の剛性を高くすることにより、不同沈下が均等化される。

[No. 5] 図に示す3ヒンジラーメン架構のAC間及びDE間に集中荷重 P が同時に作用したとき、支点Bに生じる水平反力 H_B 、鉛直反力 V_B の値の組合せとして、正しいものはどれか。

ただし、反力は右向き及び上向きを「+」、左向き及び下向きを「-」とする。



1. $H_B = -5 \text{ kN}$, $V_B = +12 \text{ kN}$
2. $H_B = -4 \text{ kN}$, $V_B = -3 \text{ kN}$
3. $H_B = +12 \text{ kN}$, $V_B = -5 \text{ kN}$
4. $H_B = -3 \text{ kN}$, $V_B = -4 \text{ kN}$

[No. 6] 鋼及び鋼材に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 鋼は、一般に炭素量が多くなると、引張強さは増加し、靱性は低下する。
2. 鋼は、ある特定の温度以上まで加熱した後、急冷する焼入れ処理により、硬くなり、強度が増加する。
3. TMCP 鋼は、熱加工制御により製造され、高靱性であり溶接性に優れた鋼材である。
4. SN 490 B や SN 490 C は、炭素当量の上限の規定がない建築構造用圧延鋼材である。

※ 問題番号 [No. 7] から [No. 15] までの 9 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
 6 問題を超えて解答した場合、減点となります。
 問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 7] 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 光束とは、単位波長当たりの放射束を標準比視感度で重みづけした量をいう。
2. グレアとは、高輝度な部分、極端な輝度対比や輝度分布等によって感じられるまぶしさをいう。
3. 照度とは、受照面の単位面積当たりの入射光束の量をいう。
4. 全天空照度とは、天空光が遮蔽されることのない状況で、直射日光を含めた全天空によるある点の水平面照度をいう。

[No. 8] 吸音及び遮音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 多孔質の吸音材は、一般に高音域より低音域の吸音に効果がある。
2. 残響時間は、室の容積が大きいほど長くなり、室内の平均吸音率が大きいほど短くなる。
3. 室間音圧レベル差の遮音等級は D 値で表され、D 値が大きいほど遮音性能は高い。
4. 音響透過率が小さいほど、音響透過損失が大きくなり、遮音性能は高くなる。

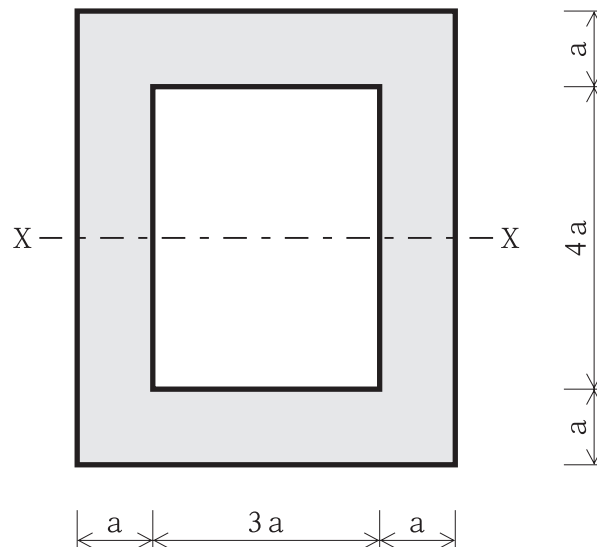
[No. 9] 免震構造の建築物に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 免震構造の建築物は、免震構造としない場合に比べ、固有周期が短くなる。
2. 免震部材の配置を調整し、上部構造の重心と免震層の剛心を合わせることで、ねじれ応答を低減できる。
3. 免震構造は、建築物を鉛直方向に支える機構、水平方向に復元力を発揮する機構及び建築物に作用するエネルギーを吸収する機構が基本的な構造要素になる。
4. 免震構造の建築物の配置計画においては、建築物の周囲に敷地の余裕が必要である。

[No. 10] 鉄筋コンクリート構造の梁に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

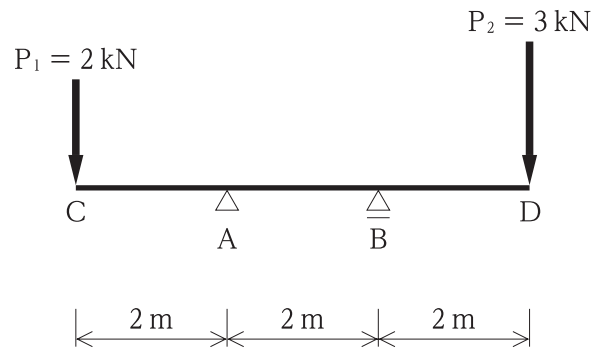
1. 梁の主筋は D 13 以上の異形鉄筋とし、その配置は、特別な場合を除き 2 段以下とする。
2. 梁のせん断補強筋は、直径 9 mm 以上の丸鋼又は D 10 以上の異形鉄筋とし、せん断補強筋比は 0.2 % 以上とする。
3. 梁のせん断補強筋の間隔は、梁せいの $\frac{1}{2}$ 以下、かつ、250 mm 以下とする。
4. 梁に孔径が梁せいの $\frac{1}{3}$ の円形の貫通孔を 2 個設ける場合、その中心間隔は両孔径の平均値の 2 倍以上とする。

[No. 11] 図に示す中空断面の X-X 軸に対する断面二次モーメントの値として、正しいものはどれか。

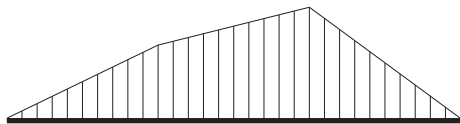


1. $22 a^3$
2. $38 a^3$
3. $74 a^4$
4. $106 a^4$

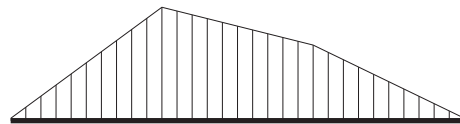
[No. 12] 図に示す単純梁の点Cに集中荷重 P_1 が、点Dに集中荷重 P_2 が同時に作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。
 ただし、曲げモーメントは材の引張側に描くものとする。



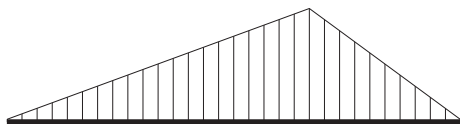
1.



2.



3.



4.



[No. 13] 屋根材料に関する記述として、「日本産業規格 (JIS)」上、誤っているものはどれか。

1. 金属製折板の耐力による区分は、1種から5種があり、1種が最も耐力が小さい。
2. 金属製折板の材料による区分には、鋼板製とアルミニウム合金板製がある。
3. 繊維強化セメント板のスレート（波板）の曲げ破壊荷重の下限は、小波板より大波板のほうが小さい。
4. 繊維強化セメント板のスレート（波板）の吸水率は、小波板と大波板では同じである。

[No. 14] 防水材料に関する記述として、「日本産業規格 (JIS)」上、誤っているものはどれか。

1. 防水工事用アスファルトは、フラスゼい化点の温度が低いもののほど低温特性のよいアスファルトである。
2. ストレッチルーフィング1000の数値1000は、製品の抗張積を表している。
3. 改質アスファルトルーフィングシートは、温度特性による区分でⅠ類とⅡ類があり、低温時の耐折り曲げ性がよいものはⅠ類である。
4. 屋根用ウレタンゴム系防水材は、引張強さ、伸び率、抗張積等の特性によって、高伸長形と高強度形に区分されている。

[No. 15] 塗料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アクリル樹脂系非水分散形塗料は、屋内のせっこうボード面には適していない。
2. つや有合成樹脂エマルジョンペイントは、屋外のモルタル面には適していない。
3. アクリルシリコン樹脂ワニスは、屋外の木部には適していない。
4. クリヤラッカーは、屋内のモルタル面には適していない。

※ 問題番号[No. 16]から[No. 20]までの5問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 16] 植栽に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 枝張りとは、樹木の4方向に伸長した枝の幅をいい、測定方向により長短がある場合は、最長と最短の平均値とする。
2. 幹周とは、根鉢の上端から1.2mの高さの幹の周長をいい、樹木の幹が2本以上の場合は、各々の幹の周長の総和とする。
3. 根巻きに際しては、鉢土の崩れを防止するため、鉢の表面を縄等で十分に締め付ける。
4. 樹木は、現場搬入後、仮植えや保護養生をしてから植え付けるよりも、速やかに植え付けるほうがよい。

[No. 17] 避雷設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 接地極は、建築物を取り巻くように環状に配置する場合、0.5m以上の深さで外壁から1m以上離して埋設する。
2. 受雷部は、保護しようとする建築物の立地条件、重要度等に対応した4段階の保護レベルに応じて配置する。
3. 危険物を貯蔵する倉庫は、危険物の貯蔵量や建築物の高さにかかわらず、避雷設備を設けなければならない。
4. 鉄骨構造の金属構造体は、構造体利用引下げ導線として使用することができる。

[No. 18] 排水設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 排水槽の底の勾配は、吸い込みピットに向かって $\frac{1}{100}$ 以上 $\frac{1}{50}$ 以下とする。
2. 排水横管に設ける掃除口の設置間隔は、管径が100mmの場合、一般に15m以内とする。
3. 排水トラップの封水深は、阻集器を兼ねるものを除き、5cm以上10cm以下とする。
4. 通気管の末端が建築物の出入口や窓、換気口等の開口部付近にあるときは、原則として、開口部の上端より60cm以上立ち上げる。

[No. 19] 建築物に設置する防災設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 屋内消火栓設備は、建物の内部に設置し、人がノズルを手を持って火点に向けて注水を行い、冷却作用により消火する設備である。
2. 粉末消火設備は、放射する消火粉末が熱により分解し、発生する炭酸ガスによって酸素の供給を遮断して消火する設備である。
3. 連結散水設備は、地下等の消火活動が困難な場所に設置してある散水ヘッドに対し、送水口から消防ポンプ車で送水する設備である。
4. 閉鎖型ヘッドを用いる湿式スプリンクラー消火設備は、火災による煙を感知したスプリンクラーヘッドが自動的に開き、散水して消火する設備である。

[No. 20] 工事費における共通費に関する記述として、「公共建築工事共通費積算基準（国土交通省制定）」上、誤っているものはどれか。

1. 共通的な工事用機械器具（測量機器、揚重機械器具、雑機械器具）に要する費用は、共通仮設費として計上する。
2. 情報共有システム、BIMアプリケーションに要する費用は、共通仮設費として計上する。
3. 消火設備等の施設の設置、隣接物等の養生に要する費用は、現場管理費として計上する。
4. 火災保険、工事保険の保険料は、現場管理費として計上する。

※ 問題番号 [No. 21] から [No. 30] までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
 7 問題を超えて解答した場合、減点となります。
 問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 21] 乗入れ構台の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 乗入れ構台の支柱の位置は、基礎、柱、梁及び耐力壁を避け、5 m 間隔とした。
2. 山留めの切梁支柱と乗入れ構台の支柱は、荷重に対する安全性を確認したうえで兼用した。
3. 道路から乗入れ構台までの乗込みスロープは、勾配を $\frac{1}{5}$ とした。
4. 構台支柱の水平つなぎ材の高さは、山留めの切梁と同じ高さとした。

[No. 22] 地盤調査及び土質試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 一軸圧縮試験では、粘性土の強度及び剛性を求めることはできない。
2. 原位置における透水試験により、地盤に人工的に水位差を発生させ、水位の回復状況から透水係数を求めることができる。
3. 液性限界試験及び塑性限界試験により、土の物理的性質の推定や塑性図を用いた土の分類をすることができる。
4. スクリューウエイト貫入試験は、密な砂質地層、礫層、固結地層等には適用できない。

[No. 23] 地下水処理工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ディープウェル工法は、周辺の井戸枯れや地盤沈下等を生じさせるおそれがある。
2. ディープウェル工法は、透水性の低い粘性土地盤の地下水位を低下させる場合に適している。
3. ウェルポイント工法は、気密保持が重要であり、パイプの接続箇所での漏気が発生しないようにする。
4. ウェルポイント工法は、透水性の高い粗砂層から低いシルト質細砂層までの地盤に適している。

[No. 24] アースドリル工法による場所打ちコンクリート杭の施工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 地下水がなく孔壁が自立する地盤であったため、安定液を使用せずに施工した。
2. 安定液は、必要な造壁性を確保したうえで、できるだけ低粘性、低比重のものをういた。
3. 鉄筋かごを所定の寸法と形状に保持するため、変形防止用の補強材を2 m から3 m の間隔で配置した。
4. 杭頭部の余盛り高さは、孔内水があったため、500 mm とした。

[No. 25] 鉄筋のガス圧接継手に関する記述として、最も不適当なものはどれか。
ただし、圧接する鉄筋の種類はSD 345 とし、径は同一とする。

1. 圧接部の膨らみの長さは、鉄筋径の1.1 倍以上とする。
2. 圧接部の膨らみの直径は、鉄筋径の1.4 倍以上とする。
3. 圧接部の折れ曲がり角は、 2° 以下とする。
4. 圧接部における鉄筋中心軸の偏心量は、鉄筋径の $\frac{1}{4}$ 以下とする。

[No. 26] 型枠工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの施工時の側圧や鉛直荷重に対する型枠の各部材のたわみの許容値は、2 mm 以下とした。
2. 型枠の変形の検討に用いるコンクリート型枠用合板の曲げヤング係数は、長さ方向スパン用と幅方向スパン用では異なる数値とした。
3. 3.5 m を超えるパイプサポートを支柱として用いるため、高さ2 m 以内ごとに水平つなぎを2 方向に設けた。
4. スラブ型枠の支保工に用いた軽量型支保梁は、支保梁の中間部に支柱を立てて補強した。

[No. 27] 普通コンクリートの運搬及び打込みに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 外気温が 25°C を超えていたため、コンクリートの練混ぜ開始から打込み終了までの時間は、90 分以内とした。
2. マスコンクリートの荷卸し時のコンクリート温度の上限は、 40°C とした。
3. コンクリートの圧送負荷の算定に用いるベント管の水平換算距離は、ベント管の実長の3 倍とした。
4. コンクリートの圧送に用いる輸送管の呼び寸法は、粗骨材の最大寸法の4 倍以上とした。

[No. 28] 鉄骨の加工及び組立てに関する記述で、最も不適当なものはどれか。

1. 板厚が 16 mm の鋼材の切断は、せん断による切断とした。
2. 鉄骨鉄筋コンクリート構造において、鉄骨柱と鉄骨梁の接合部のダイアフラムに、コンクリートの充填性を考慮し、空気孔を設けた。
3. 鋼材の加熱曲げ加工は、靭性脆性域を避け、赤熱状態で行った。
4. ガスシールドアーク溶接を行う箇所の組立て溶接において、板厚が 12 mm の場合、最小ビード長さを 40 mm とした。

[No. 29] 木造在来軸組構法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 集成材にあけるボルト孔の心ずれは、許容誤差を ± 2 mm とした。
2. 1 階及び 2 階の上下同位置に構造用面材の耐力壁を設けるため、胴差部において、構造用面材相互間に 4 mm のあきを設けた。
3. 接合に用いるラグスクリューは、ねじ込みが困難であったため、スクリュー部に潤滑剤を用いた。
4. 接合に用いるボルトの締付けは、座金が木材へ軽くめり込む程度とした。

[No. 30] 建設機械に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ブルドーザーは、盛土、押土、整地の作業に適している。
2. ブルドーザーの平均接地圧は、全装備質量が同程度の場合、普通ブルドーザーより湿地ブルドーザーのほうが小さい。
3. ラフテレーンクレーンは、同じ運転室内でクレーンと走行の操作ができ、機動性に優れている。
4. アースドリル掘削機は、一般にリバース掘削機に比べ、より深い掘削能力がある。

※ 問題番号 [No. 31] から [No. 40] までの 10 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
 8 問題を超えて解答した場合、減点となります。
 問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。

[No. 31] 塗膜防水に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ウレタンゴム系塗膜防水の絶縁工法において、通気緩衝シートの重ね幅は、50 mm とした。
2. ウレタンゴム系塗膜防水の密着工法において、コンクリート下地の打継ぎ箇所に、幅 100 mm の補強布を用いて補強塗りを行った。
3. ゴムアスファルト系塗膜防水の室内仕様において、平場部における防水材の塗継ぎの重ね幅は、100 mm とした。
4. ゴムアスファルト系塗膜防水の室内仕様において、平場部における補強布の重ね幅は、50 mm とした。

[No. 32] 外壁タイルの後張り工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. タイル張り面の伸縮調整目地の位置は、横目地を各階ごとの打継ぎ目地に合わせ、縦目地を 5 m 内外に割り付けた。
2. マスク張りにおいて、下地への張付けは、表張りユニットタイルの裏面に張付けモルタルを塗り付けた後、直ちにを行った。
3. 密着張りにおけるタイルの目地深さは、目地ごてで目地詰めを行い、タイル厚の $\frac{1}{2}$ 以下となるように仕上げた。
4. モザイクタイル張りにおいて、表張りユニットタイルのたたき押えは、タイル目地に盛り上がった張付けモルタルの水分で目地部の紙が湿るまで行った。

[No. 33] 心木なし瓦棒葺に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 軒先納めにおける唐草の継手は、通し吊子の位置で重ね継ぎとした。
2. けらば端部の長さは、瓦棒の働き幅の $\frac{1}{2}$ 以下とした。
3. 通し吊子は、平座金を付けたドリリングタッピンねじで、下葺材及び野地板を貫通させて鉄骨母屋に固定した。
4. 水上部分と壁との取合い部に設ける雨押えは、壁際立上りの高さを 45 mm とした。

[No. 34] 軽量鉄骨壁下地に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 間仕切壁の出入口における縦枠の補強材は、上部を軽量鉄骨天井下地に取付けたランナに固定した。
2. 振れ止めが埋込みボックスに干渉したため、切断して振れ止めと同材で補強した。
3. スタッドの長さが4.5 mであったため、区分記号90形のスタッドを用いた。
4. ランナは、両端部を端部から50 mm内側で固定し、中間部を900 mm程度の間隔で固定した。

[No. 35] 塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート面のアクリル樹脂系非水分散形塗料塗りににおいて、下塗り、中塗り、上塗りとともに同一材料を使用し、塗付け量はそれぞれ0.10 kg/m²とした。
2. 押出成形セメント板面の2液形ポリウレタンエナメル塗りににおいて、気温が20℃であったため、中塗り後から上塗りまでの工程間隔時間を4時間とした。
3. 合成樹脂エマルジョンペイント塗りににおいて、塗料の流動性を上げるため、水で希釈して使用した。
4. 木部の素地面へのクリヤラッカー塗りににおいて、下塗り、中塗り、上塗りとともにワニス刷毛を使用し、木目に沿って塗り付けを行った。

[No. 36] 内装ビニル床シート張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 熱溶接工法における溶接部の溝切りの深さは、床シート厚の $\frac{1}{3}$ とした。
2. 寒冷期の施工において、張付け時の室温が5℃以下になることが予想されたため、採暖を行い、室温を10℃以上に保った。
3. 床シートの張付けは、下地に接着剤を塗布した後、所定のオープンタイムをとってから張り付けた。
4. 張付け用の接着剤は、くし目ごてを用いて下地面の全面に均一に塗布した。

[No. 37] 内装工事におけるボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. せっこうボードを軽量鉄骨天井下地に張り付ける際、ドリリングタッピンねじの留付け間隔は、周辺部 150 mm 程度、中間部 200 mm 程度とした。
2. せっこうボードを軽量鉄骨壁下地に張り付ける際、ドリリングタッピンねじの留付け位置は、ボード端部から 10 mm 程度内側とした。
3. ロックウール化粧吸音板を天井せっこうボード下地に重ね張りする際、吸音板の目地は、下地ボードの目地と重ならないよう、50 mm 以上ずらして張り付けた。
4. ベベルエッジのせっこうボードを用いる際、突付けジョイント部の目地処理における上塗りは、ジョイントコンパウンドを幅 200 mm から 250 mm 程度に塗り広げた。

[No. 38] 鉄筋コンクリート構造の建築物における内部の断熱工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 硬質ウレタンフォーム吹付け工法において、ウレタンフォームが厚く付きすぎ、仕上げ材を施工するうえで支障となる箇所は、カッターナイフで表層を除去した。
2. 硬質ウレタンフォーム吹付け工法において、随時吹付け厚さを測定しながら作業し、厚さの許容誤差を 0 mm から + 10 mm として管理した。
3. 押出法ポリスチレンフォーム張付け工法において、下地面の不陸が 2 m 当たり最大 5 mm であったため、接着剤を厚くして調整することで不陸に対応した。
4. 押出法ポリスチレンフォーム打込み工法において、コンクリートの流出を防止するために、断熱材の継目は突付けとしてテープ張りをした。

[No. 39] 外壁の押出成形セメント板張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 横張り工法において、パネルは、積上げ枚数 5 枚ごとに構造体に固定した自重受け金物で受けた。
2. 幅 600 mm のパネルを用いた縦張り工法において、パネル相互の目地幅は、層間変形に対してロッキングにより追随するため、縦目地を 10 mm、横目地を 15 mm とした。
3. パネル取付け金物（Z クリップ）は、下地鋼材へのかかり代を 30 mm、溶接長さを 15 mm とし取り付けた。
4. パネルの欠込みは、パネル幅が 600 mm の場合、欠込み幅の限度を 300 mm とした。

[No. 40] 鉄筋コンクリート構造の建築物における外壁改修工事に関する次の文章中、に当てはまる語句として、最も適切なものはどれか。

「小口タイル張り仕上げの外壁において、下地モルタルも含めたタイル陶片の剥落欠損が発生しており、下地モルタルも併せて補修する必要があるため、タイル張替え工法において を用いた。」

1. 有機系接着剤
2. 可とう性エポキシ樹脂
3. ポリマーセメントモルタル
4. ポリマーセメントスラリー

※ 問題番号[No. 41]から[No. 44]までの4問題は、全問題を解答してください。
問題は四肢択一式です。正解と思う肢の番号を1つ選んでください。

[No. 41] 建築工事における事前調査や準備作業に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 掘削深さや地盤条件に応じた山留めを設けることとしたため、近接構造物の基礎構造形式の調査を省略した。
2. 事務所ビルの解体に当たり、対象建築物の新築工事の着手時期が平成19年であることを書面で確認できたため、石綿含有建材が使用されていないと判断し、石綿に関する事前調査を終了した。
3. 床面積が80 m²の既存建築物の解体に当たり、再資源化施設の場所を調査することとした。
4. タワークレーン設置による電波障害が予想されたため、近隣に対する説明を行って了解を得た。

[No. 42] 施工計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 大規模、大深度の工事において、全体工期の短縮を図るため、地下躯体工事と並行して上部躯体を施工する逆打ち工法とする計画とした。
2. 鉄筋工事において、工期短縮のため、柱や梁の鉄筋を工場での先組み工法とする計画とした。
3. 鉄骨工事において、建入れ修正を容易にするため、建方を建逃げ方式とする計画とした。
4. 型枠工事において、施工の省力化を図るため、基礎型枠をせき板の解体が不要なラス型枠とする計画とした。

[No. 43] 工事現場における材料の保管及び取扱いに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 木製建具は、取付け工事直前に搬入し、障子や襖は縦置き、フラッシュ戸は平積みにして保管した。
2. 被覆アーク溶接棒は、吸湿しているおそれがあったため、乾燥装置で乾燥してから使用した。
3. フローリング類は、屋内のコンクリートの床にシートを敷き、角材を並べた上に保管した。
4. 可燃性塗料は、屋根を軽量な不燃材料で葺き、天井を設けた独立した専用の平屋建て倉庫に保管した。

[No. 44] 工程管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 山均しは、作業員、施工機械、資機材等の供給量の谷を埋めて、供給量が均等になるように工程を調整することである。
2. 総工事費は、常に工期に比例して増加する。
3. 共通費は、工期の長短に相関して増減する。
4. 採算速度とは、工事で利益を得ることができる施工速度をいう。

